

平成27年度  
笠間市教育委員会外部評価報告書  
(平成26年度対象事業)

平成28年1月  
笠間市教育委員会

# 目 次

1	目的	1
2	対象事業の選定	1
3	行政内部評価	1
4	外部評価	1
5	点検・評価結果の公表等	1
6	評価事業の結果	2
7	事業個別評価書	3
参考	教育委員会の活動状況	11

## 1 目的

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、教育委員会がその権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行うことになっています。また、その結果に関する報告書を議会に提出し、公表することにより、効果的な教育行政の推進と市民への説明責任を果たしていくこととされています。

笠間市教育委員会でも、この法律に基づき、平成26年度の教育委員会事務事業の点検及び評価を教育に関し学識経験者の助言等をいただき、教育行政サービスの質の向上と市民への説明責任を果たしていきます。

## 2 対象事業の選定

点検評価の対象事業は、笠間市総合計画に定める事務事業に基づき、教育委員会が行った主な事業を対象としました。

## 3 行政内部評価

対象事業について、目的・対象・成果等を取りまとめ、必要性・有効性・効率性の観点から各主管課で評価を行いました。

## 4 外部評価

外部の学識経験者で構成された「笠間市教育委員会外部評価委員会」により、各担当課の事業ヒアリングを実施し、評価事業の客観性の検証と改善に対する意見及び提言等を行いました。

(1) 外部評価委員会 開催日 平成28年 1月13日(水)  
開催場所 笠間市役所 教育棟教育委員会室

(2) 外部評価委員会委員(敬称略)

氏名	備考
鈴木 暎一	茨城大学名誉教授
佐藤 武彦	元教育委員
高橋 一夫	元中学校長
川上 由美子	元PTA会長
渡邊 洋子	常磐大学准教授

## 5 点検・評価結果の公表等

(1) 議会への報告

点検・報告の結果については、報告書を作成し市議会へ報告します。

(2) 公表

報告書を市ホームページにより公表します。

## 6 評価事業の結果

事業名	評価結果	意見や助言等
体育施設管理運営事業 (スポーツ振興課)	現行どおり継続	利用者拡大への努力を行っていることは評価できるので、今後とも努力の継続を期待している。 直営・指定施設について、検討委員会で慎重に審議されていることを評価したい。 健康で文化的な生活を営み、健康増進を図るうえで各種体育施設は必要不可欠であり、管理運営面についても効果性・効率性を高める目的から民間業者のノウハウを活かすための指定管理制度も導入され、現行どおり継続すべき。
預かり保育事業(笠間・稲田幼稚園)	現行どおり継続	少子高齢化の一層の進展と一億総活躍時代(特に女性の活躍)面を反映し保護者のニーズも増加していることを踏まえ、子育て家庭の支援のために継続実施すべきと認められる。 保護者の子育てニーズに応える努力を両園共に工夫し展開している。
通学路交通安全施設整備事業(学務課)	現行どおり継続	企業誘致・経年変化等により状況が変化していくので、最新の状況把握を続けてほしい。 立派な「プログラム」ができたので、これを着実に実施していただきたい。 通学路の安全確保については、極めて重要な事業である。その基本となるのは、いかに危険箇所や要安全対策箇所を広く把握することにある。そのうえで、安全施設整備は当然継続すべき事業である。
青少年育成事業(生涯学習課)	改善し、継続	次世代を担う子どもを育成するため、総論的には必要な事業であるが、事業内容毎に見ると改善が必要。 事業によっては、笠間・友部・岩間の旧市町では「地区」のつながりの状態などに差があるようなので、それをどう調整するか検討も必要である。
図書館サービス事業(笠間・友部・岩間図書館)	現行どおり継続	全国図書館貸出点数において、3年連続1位の努力は大変立派である。今後も条件整備・環境整備に工夫し継続したサービスに努めてほしい。 一般市民に対する、資料や情報提供等生涯学習の場の提供で重要なことに加え、「子ども読書活動の推進に関する法律」の施行もありさらに重要な位置づけと認められる。
地区公民館運営事業	改善し、継続	各地区の生涯教育等に果たす役割は大きく、その必要性等は十分に理解できる。一方において新笠間市合併10年となる中で、老朽化した公民館の建て替え等が浮上し財政上も一層厳しくなると認められ、さらに友部地区・岩間地区とのバランスを考慮すると、今後の笠間地区公民館のあり方について再検討を要する時期に来ていると思われる。

## 7 事業個別評価書

別紙「平成27年度笠間市教育委員会外部評価対象事業個別評価書」による。

平成27年度 笠間市教育委員会外部評価対象事業個別評価書

事務事業名		体育施設管理運営事業			
担当部署	スポーツ振興課	事業費	90,128 千円	人件費	4,500 千円
事務事業概要					
地方自治法 244 条の 2 により、公の施設について民間サービスのノウハウを活用することから、指定管理者制度を導入するとともに直営施設についても維持管理を行う。					
事務事業の目的と手段			指標の設定		H26 実績
目的 手段	① 対象	体育施設	◇ 対象指標	体育施設数	19 施設
	②事務事業の意図 (対象をどのようにしたいか) (どういう状態にしたいか)	安全で安心な施設でスポーツを楽しんでもらう	◇ 成果指標	体育施設数	19 施設
	③目的を達成するために実際に 行った行政活動 (サービス)	直営施設の維持管理及び指定管理施設の調整	◇ 活動指標	維持管理体育施設数	19 施設
内部評価	一次評価	区分	評価	評価理由	
		必要性	適切	体育施設の不備に起因する事故等は、管理者である笠間市及び指定管理者として絶対避けなければならないことであり、安全で安心な施設を市民に提供しなければならない。	
		有効性	適切	指定管理者施設については、民間のノウハウを活かし市民サービスを向上させることができる。	
	効率性	適切	最小限の経費で運営している。		
	総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	指定管理施設については、管理業者変更後2年が経過し、スムーズな管理運営ができるようになってきている。今後も指定管理者と連携し、適正な管理運営及びサービスの向上に努めていく。	
	資源配分	現状維持			

外部評価	
内部評価の検証	事務事業の目的及び達成状況を測る指数は概ね適切である。 事務事業の現状把握及び課題の認識は概ね適切である。 分析を踏まえた論理的な方向性が概ね適切に選択されている。
事務事業の目的及び達成状況を測る指数は：	適正 1名 ・ 概ね適切 4名 ・ 不適切 0名
事務事業の現状把握及び課題の認識	： 適正 1名 ・ 概ね適切 4名 ・ 不適切 0名
分析を踏まえて、論理的な方向性が選択されている	： 適正 1名 ・ 概ね適切 4名 ・ 不適切 0名
今後の方向性	■現行どおり継続 4名 □改善し、継続 1名 □休止 □廃止
意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 指定管理者の事前検討や事後検証を十分行う必要がある。 利用者拡大への努力を行っていることは、評価できるので今後とも努力の継続を期待している</li> <li>○ 検討された内容に沿って、指定管理者の選定・検討が市民の視点に立って慎重に行われるようにしていただきたい。 受益者負担とあるが、市民が幅広く使用できることを優先してほしい。</li> <li>○ 「健康都市かさま」を宣言している笠間市として、広くたくさんの方の市民にスポーツに親んでもらうには、公共の体育施設の管理運営は重要と考える。 予算の問題もあるかと思うが、多くの市民のニーズに応えられる事業であってほしい。</li> <li>○ 競技場の向上面では、小中学生への配慮はなされているか等、しっかり検証し、より良いものにしてほしい。</li> <li>○ 健康で文化的な生活を営み、健康増進を図るうえで各種体育施設は必要不可欠であり、管理運営面についても効果性・効率性を高める目的から民間業者のノウハウを活かすための指定管理制度も導入され、現行どおり継続すべきと認められる。</li> <li>○ 指定管理施設における自主事業において、前年度と比べ事業数・参加者数とも大幅に伸びており高く評価できる。</li> <li>○</li> </ul>

平成27年度 笠間市教育委員会外部評価対象事業個別評価書

事務事業名	預かり保育事業				
担当部署	笠間・稲田幼稚園	事業費	86 千円	人件費	1,393 千円
事務事業概要					
教育課程に係る教育時間外の時間に教育活動を行う。					
事務事業の目的と手段			指標の設定		H26 実績
目的 手段	①対象	全園児	⇨ 対象指標	各幼稚園園児数	笠間 109人 稲田 52人
	②事務事業の意図 (対象をどのようにしたいか) (どういう状態にしたいか)	子育て支援の充実を図る	⇨ 成果指標	各幼稚園利用者延人数	笠間 863人 稲田 429人
	③目的を達成するために実際に行った行政活動(サービス)	教育活動後～17:00までの保育 教育活動後～17:00までの臨時預かり保育 夏季休業中の預かり保育(15日間)	⇨ 活動指標	各幼稚園利用日数	笠間 205日 稲田 180日
内部評価	一次評価	区分	評価	評価理由	
		必要性	適切	保護者のニーズに応じた預かり保育は、必要不可欠。	
		有効性	適切	保護者のニーズに現状維持のまま対応できているから。	
	効率性	適切	預かり保育の利用者は増加傾向にあり、削減することはできない。		
	総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	利用者も多く、現状のまま継続する。	
資源配分		現状維持			

外部評価	
内部評価の検証	事務事業の目的及び達成状況を測る指数は概ね適切である。 事務事業の現状把握及び課題の認識は概ね適切である。 分析を踏まえた論理的な方向性が概ね適切に選択されている。
事務事業の目的及び達成状況を測る指数は	: 適正 3名 ・ 概ね適切 2名 ・ 不適切 0名
事務事業の現状把握及び課題の認識	: 適正 3名 ・ 概ね適切 2名 ・ 不適切 0名
分析を踏まえて、論理的な方向性が選択されている	: 適正 4名 ・ 概ね適切 1名 ・ 不適切 0名
今後の方向性	■現行どおり継続 3名 □改善し、継続 2名 □休止 □廃止
意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 少子高齢化の一層の進展と一億総活躍時代(特に女性の活躍)面を反映し、保護者のニーズも増加していることを踏まえ、子育て家庭の支援のために継続実施すべきと認められる。</li> <li>○ 核家族化や働く女性が増える社会の変化に合わせ、預かり保育事業は必要と考える。近隣幼稚園を参考にした預かり料金という事だが、保護者の負担を考えなるべく安くした方がよいのでは。また保育時間も17時より遅い時間の方が利用しやすいと考える。</li> <li>○ 保護者のニーズに応えるため、今後も継続するよう希望するが、常勤教諭の採用が困難なようなので、その点をどのように解決するのか今後の課題である。一人でも多く専任職員の採用が認められるよう働きかけてほしい。</li> <li>○ 保護者の子育てのニーズに応える努力を両園共に工夫して展開している。</li> <li>○ 質の向上が最優先の改善必要事項と感じた。</li> <li>○ 魅力あり丁寧に教育をしてくれる、公立認定子ども園として、笠間の幼稚園の文化・伝統に誇りをもった事業運営をお願いしたい。</li> <li>○ 正職員の数を多くすることを含め、改善が必要であると考えます。</li> </ul>

平成27年度 笠間市教育委員会外部評価対象事業個別評価書

事務事業名	通学路交通安全施設整備事業					
担当部署	学務課	事業費	164 千円	人件費	38 千円	
事務事業概要						
通学路の安全を確保するために、必要な整備等を行う。						
事務事業の目的と手段				指標の設定	H26 実績	
目的	①対象	危険が危惧される箇所	⇨	対象指標	合同点検箇所数	10 箇所
	②事務事業の意図 (対象をどのようにしたいか) (どういう状態にしたいか)	安全で安心な通学のできる通学路整備	⇨	成果指標	対策箇所	10 箇所
手段	③目的を達成するために実際に 行った行政活動 (サービス)	関係機関と合同で通学路の点検を実施し、危険箇所の把握と改善方法の検討をし、危険箇所を解消する。	⇨	活動指標	通学路の安全点検 危険箇所の整備	5 回 1 箇所
内部評価	一次評価	区分	評価	評価理由		
		必要性	適切	通学路の安全確保、危険箇所を解消することは行政の責務である。		
		有効性	適切	市民からの要望等をもとに道路管理者、警察等と連携を図り、危険箇所の解消、安全確保に努めている。		
		効率性	適切	最低限の事業費で実施している。		
	評価	総合	今後の方向性	現行どおり継続	通学路の安全確保対策事業として、危険が危惧される箇所については、継続して改善を行っていく必要がある。	
		資源配分	現状維持			

外部評価	
内部評価の検証	事務事業の目的及び達成状況を測る指数は適正である。 事務事業の現状把握及び課題の認識は適正である。 分析を踏まえた論理的な方向性が適正に選択されている。
事務事業の目的及び達成状況を測る指数は	: 適正 5名 ・ 概ね適切 0名 ・ 不適切 0名
事務事業の現状把握及び課題の認識	: 適正 5名 ・ 概ね適切 0名 ・ 不適切 0名
分析を踏まえて、論理的な方向性が選択されている	: 適正 5名 ・ 概ね適切 0名 ・ 不適切 0名
今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現行どおり継続 5名 <input type="checkbox"/> 改善し、継続 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止
意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今後も点検・確認を繰り返し行ってほしい。 企業誘致、経年変化等により状況が変化していくので、最新の状況把握を続けてほしい。 教育現場での指導を含め、学務課が中心となり交通安全対策を進めてほしい。 プログラムの改善、強化、連携強化の方策を具体的にもってほしい。</li> <li>○ 通学路の危険箇所を点検し、整備していくことは非常に重要である。 今後も継続し、より安全を確保することに努めてほしい。</li> <li>○ 市交通安全プログラムを策定し、点検対策を行っている事は意義がある。 市民にも情報（ホームページだけではなく）共有化を図り子どもたちが、安全な登下校ができるようにしてほしい。</li> <li>○ 立派な「プログラム」ができたので、これを着実に実施していただきたい。 環境整備をすることは、とても重要ですが、子ども達に「交通安全」の意識を日常的に徹底しておくことが何よりも大切なことなので、学校教育の中での取り組み・指導も必要ある。 「地域ぐるみ」の対策・対応が継続的に行われることを切望する。</li> <li>○ 通学路の安全確保については、極めて重要な事業である。その基本となるのは、いかに危険箇所や要安全対策箇所を広く把握することにある。そのうえで、安全施設整備は当然継続すべき事業である。</li> </ul>

平成27年度 笠間市教育委員会外部評価対象事業個別評価書

事務事業名		青少年育成事業			
担当部署	生涯学習課	事業費	87 千円	人件費	450 千円
事務事業概要					
<p>【①職場体験事業】地域の特色ある産業や、職業を見聞・体験することにより、新たな知識や職業感を身につけるとともに、同世代交流を目的に実施している。【②いばらき若者塾事業】地域で即戦力として活躍できる青年リーダーの養成を目的とする県事業。【③青少年育成市民会議事業】青少年育成笠間地区市民会議（笠間地区）と青少年育成岩間地区市民の会（岩間地区）との2団体で活動を行っている。</p>					
事務事業の目的と手段				指標の設定	H26実績
目的	①□対象	①小学5・6年生 ②8歳以上40歳未満の者 ③会員	⇒	対象指標	①小学5・6年生数 1,400人 ②18歳～40歳未満市民数 18,500人 ③会員数 10,052人
	②事務事業の意図 (対象をどのようにしたいか) (どういう状態にしたいか)	①青少年の健全育成と職業意識の高揚 ②青少年の人材育成 ③青少年育成団体の育成及び支援	⇒	成果指標	①満足した割合 100% ②応募者数 0人 ③事業回数 70回
手段	③目的を達成するために実際に行った行政活動(サービス)	市内の小学生に職業体験の場を提供し体験させる	⇒	活動指標	①参加者数 55人 ②開催回数 2回 ③助成者数 1人
内部評価	一次評価	区分	評価	評価理由	
		必要性	適切	①職業に興味を持ち始める小学校時代に、地元では体験できない他地域の特色ある産業を見聞し、新たな知識や職業観を身につけることは、非常に重要であり、今後の社会生活にも役立つ。そのような機会を提供できる本事業は適切だといえる。②本事業は茨城県が地域で即戦力として活躍できる青年リーダーの養成を目的に開催する研修に対し、市が参加者負担金を軽減するもので、事業終了は地域リーダーとして活躍が期待できることから適切であるといえる。③旧市町単位で組織される市民会議は、会員数も多く、市民の認知度も高い。市では団体に対して、一般財源や補助金を支出しているわけではなく、事務的援助のみとしており団体育成・支援の意味から適切な事業である。	
		有効性	適切	①交流となる場所の受入施設の規模や交通手段(市バス)に限りがあることから、現在の事業形態でよいと思われる。②県の事業に対する補助的であるため現在の形態でよい。③市民会議は市の青少年育成を担っており、行政もタイアップしていくことが重要であるが、行政が関わり過ぎると、会の自立に繋がらず役員の意識低下を招く。会に対しては行政が関わることなく、独自に事業を企画実施できるように意識改革を進めていく必要がある。	
	効率性	適切	①現在のところ削減の余地なし。 ②応募時において、事業費を検討する。 ③会が自立し、行政との関わりを最低限にして事業を実施していくことが、人件費を削減に繋がる。		
	総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	①□市内の児童に対して、地元では体験できない特色ある職業を見聞したり、新たな知識を身につけたりするこの事業は必要である。 ②□地域リーダーとして活躍が期待できるため、継続して受講生に支援していく。 ③□青少年育成笠間地区市民会議と青少年育成岩間地区市民の会の2団体で活動を行っている事業を継続的に支援していく。	
	資源配分	現状維持			



外部評価	
内部評価の検証	事務事業の目的及び達成状況を測る指数は概ね適切である。 事務事業の現状把握及び課題の認識は概ね適切である。 分析を踏まえた論理的な方向性が概ね適切に選択されている。
事務事業の目的及び達成状況を測る指数は	: 適正 0名 ・ 概ね適切 5名 ・ 不適切 0名
事務事業の現状把握及び課題の認識	: 適正 0名 ・ 概ね適切 4名 ・ 不適切 1名
分析を踏まえて、論理的な方向性が選択されている	: 適正 0名 ・ 概ね適切 5名 ・ 不適切 0名
今後の方向性	<input type="checkbox"/> 現行どおり継続 1名 <input checked="" type="checkbox"/> 改善し、継続 4名 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止
意見	<p><b>【①職業体験事業】</b></p> <p>○参加者が増えるように集合解散場所を笠間・友部・岩間を廻ってはいかがか。沢山の子ども達に体験してほしい。</p> <p>○広報など参加者を増やす工夫が必要である。</p> <p>○行事の見直し、広報の拡充が必要と考える。</p> <p>○対象人数に比して参加者の少ない事業があるので、やり方について検証が必要と考える（PRの仕方等）</p> <p><b>【②いばらき若者塾事業】</b></p> <p>○参加団体なしの実態であることから、募集方法を改める等改善して継続すべきである。</p> <p>○県の事業名称変更に合わせて、市の見直し、また団体のみであれば市としてどう対応していくのか、きちんとしたスタンスをもって臨んでほしい。</p> <p><b>【③青少年育成市民会議事業】</b></p> <p>○笠間地区市民会議、地区公民館が主体で活性化していくのは不可能なのが現状ではないか。支部社会福祉協議会と連携し活動を見直すべきである。</p> <p>○重要な施策なので、全体としてどうすべきか総合的な再検討も大切。</p> <p>○検討見直しが必要である。</p> <p>○低調ないし参加なしの実態であることから方法を改善する。</p> <p><b>【全体】</b></p> <p>○次世代を担う子どもを育成するため、総論的には必要な事業であるが、事業内容毎に見ると職業体験事業は継続的に展開されているものの「いばらき若者塾事業」「青少年育成市民会議事業」については、低調ないし参加団体なしの実態であることから、募集方法等を改める必要がある。</p> <p>○少子化、地域の組織再編を見ながら、地域が活躍しやすく充実していく組織づくりのために、現状維持ではなく大ナタを振るう必要がある。</p> <p>○事業によっては、笠間・友部・岩間の旧市町では「地区」のつながりの状態などに差があるようなので、それをどのように調整するか検討も必要である。</p>

平成27年度 笠間市教育委員会外部評価対象事業個別評価書

事務事業名		図書館サービス事業			
担当部署	図書館	事業費	笠間 43,271 友部 42,171 千円 岩間 21,142	人件費	笠間 28,560 友部 30,745 千円 岩間 19,526
事務事業概要					
市民の生活に必要な様々な資料・各種講座の提供やギャラリーを利用した情報の発信等広い分野において市民が求める情報を提供し、市民の教養・調査研究・レクリエーション等に資する事業である。					
事務事業の目的と手段			指標の設定		H26実績
目的	①対象	利用者・市民	◇	対象指標	笠間地区市民 27,026 人 友部地区市民 35,957 人 岩間地区市民 15,654 人
	②事務事業の意図 (対象をどのようにしたいか) (どのような状態にしたいか)	市民生活の質を高め豊かで安心できるものとなるよう様々な学習機会・情報が得られる。 市民・利用者からの資料案内・調査に的確に応える。 事業への参加を通して子育て支援が得られ、読書活動や図書館利用が盛んになる。	◇	成果指標	笠間 ①269,240 人 ②476,168 冊 ③740 人 友部 ①241,075 人 ②485,309 冊 ③2,862 人 岩間 ①116,937 人 ②211,294 冊 ③302 人
手段	③目的を達成するために実際に行った行政活動(サービス)	利用者の要望に応じた様々な観点で資料・情報・学習機会を提供する。 様々なテーマに基づき、レファレンス事例の保存活用を図る。 図書館資料を充実し確保する 各種子ども読書活動推進事業を開催する。	◇	活動指標	笠間 ①296 日 ②2,955 時間 ③7,515 点 ④70 日 友部 ①295 日 ②2,945 時間 ③7,152 点 ④72 日 岩間 ①297 日 ②2,965 時間 ③4,229 点 ④48 日
内部評価	一次評価	区分	評価	評価理由	
		必要性	適切	図書館は「教育機関」「社会教育機関」という法的位置づけがされており、学校教育、家庭教育と連携して市民の生涯学習の場を提供している	
		有効性	適切	図書館の利用は、もっぱら利用者の自主性・自発性に基づいており、図書館資料は学習資源として活用され、市民の生涯学習を支援し、多くの利用が示すとおり有効性は高く、利用も伸びている。	
		効率性	適切	資料の購入費は、最低限界値以下になっている。職員においても全職員の2/3を非常勤職員で対応し、コスト削減を図りながら、各種サービス・事業を各図書館の状況に応じて提供している。	
	総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	笠間市の図書館は全国でも有数のサービス実績を上げており、市民は元より市外の多くの利用者からも頼られている。今後とも多くの利用者の要望に応え、各種の資料や情報を提供し、生涯学習の拠点として高い水準のサービスを提供することが必要である。	
資源配分		現状維持			

外部評価	
内部評価の検証	事務事業の目的及び達成状況を測る指数は適正である。 事務事業の現状把握及び課題の認識は適正である。 分析を踏まえた論理的な方向性が適正に選択されている。
事務事業の目的及び達成状況を測る指数は	: 適正 4名 ・ 概ね適切 0名 ・ 不適切 0名
事務事業の現状把握及び課題の認識	: 適正 4名 ・ 概ね適切 0名 ・ 不適切 0名
分析を踏まえて、論理的な方向性が選択されている	: 適正 4名 ・ 概ね適切 0名 ・ 不適切 0名
今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現行どおり継続 4名 <input type="checkbox"/> 改善し、継続 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止
意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全国図書館貸出点数において、3年連続1位の努力は大変立派である。今後も条件整備・環境整備に工夫し継続したサービスに努めていってほしい。</li> <li>○ 貸出点数の日本一を守っているのは、3館の日常的努力の結果で敬意を表する。生涯学習の拠点としても、その重要性は益々高まっていると思うので、予算充実も含めさらなる工夫をお願いしたい。</li> <li>○ 生涯学習の点から図書館サービス事業は重要と考える。各館の努力により3年連続1位の実績は素晴らしい。</li> <li>○ 一般市民に対する、資料や情報提供等生涯学習の場の提供で重要であることに加え、「子ども読書活動の推進に関する法律」の施行もありさらに重要な位置づけと認められる。市立図書館3館と学校図書館の一層の連携強化を図りながら、継続実施すべきと認められる。なお、3館がそれぞれ工夫した事業を展開しており、全国でも人口規模では、1位の利用実績であることは高く評価できる。</li> </ul>

平成27年度 笠間市教育委員会外部評価対象事業個別評価書

事務事業名	地区公民館運営事業					
担当部署	笠間公民館	事業費	2,693 千円	人件費	1,950 千円	
事務事業概要						
昭和40年代からの学校統合による土地利用や、土地改良事業の補助による施設整備により、各地区の社会教育の拠点として笠間地区に12施設が設置されている。当施設のより充実した運営を図る。						
事務事業の目的と手段				指標の設定		
目的	①対象	地区公民館利用者	◇	対象指標	事業回数 事業参加者数	3,827 回 52,768 人
	②事務事業の意図 (対象をどのようにしたいか) (どのような状態にしたいか)	地区公民館による年間事業を実施する。	◇	成果指標	事業回数 事業参加者数	3,827 回 52,768 人
手段	③目的を達成するために実際に行った行政活動(サービス)	12地区の地区公民館の年間事業計画に基づき、それぞれ講座やイベント等を実施する。	◇	活動指標	事業回数 事業参加者数	3,827 回 52,768 人
内部評価	一次評価	区分	評価	評価理由		
		必要性	適切	地域コミュニティの希薄化等が問題視されており、現在の地区公民館の果たす役割は多く身近な生涯学習の場として重要な施設である		
		有効性	適切	幅広い地域づくりの推進や趣味・特技を活かすための交流の場として有効な施設である。		
		効率性	適切	地区公民館長・主事会議を通して意見の交換等を実施することにより、充実した運営を図ることができる。		
	評価 総合	今後の方向性	現行どおり継続	社会教育法に基づく事業をそれぞれに展開することにより、地域住民の交流に有効な事業である。また地域のコミュニケーションの拠点としてその活動が重要なものであることから、現行どおり継続する。		
資源配分		現状維持				

外部評価	
内部評価の検証	事務事業の目的及び達成状況を測る指数は概ね適切である。 事務事業の現状把握及び課題の認識は概ね適切である。 分析を踏まえた論理的な方向性が概ね適切に選択されている。
事務事業の目的及び達成状況を測る指数は	: 適正 4名 ・ 概ね適切 0名 ・ 不適切 0名
事務事業の現状把握及び課題の認識	: 適正 4名 ・ 概ね適切 0名 ・ 不適切 0名
分析を踏まえて、論理的な方向性が選択されている	: 適正 4名 ・ 概ね適切 0名 ・ 不適切 0名
今後の方向性	<input type="checkbox"/> 現行どおり継続 1名 <input checked="" type="checkbox"/> 改善し、継続 3名 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止
意見	<p>○ 地域に根ざした古い歴史があり、その地区で活発に有効活用されている。特に高齢者の活用場所として意義深いものがある。しかし、各々の活用状況に違いがあり将来的には、どのような方向づけにすべきかの見通しが必要と考える。</p> <p>○ 地区公民館の活動実績には、大いにすべきものがあるが、しかし将来10年先・20年先を見通してみれば人口減少・予算削減あるいは、友部地区・岩間地区住民からみての不公平感といった面も考慮しなければならない。 今のうちに、その将来のあり方について議論しておくべきである。将来は、統廃合も視野に入れてみなければならない。</p> <p>○ 地域コミュニティ活動の充実等のためには、必要な事業だと思いが、そこに市の予算をあてるのはいかなものかと考える。 合併10年が経つことから審議をしてはどうか。</p> <p>○ 笠間地区の地区公民館運営事業(12地区公民館)については、各地区の生涯教育等に果たす役割は大きく、その必要性等は十分に理解できる。一方において新笠間市合併10年となる中で、老朽化した公民館の建て替え等が浮上し財政上も一層厳しくなると認められ、さらに友部地区・岩間地区とのバランスを考慮すると、今後の笠間地区公民館のあり方について再検討を要する時期に来ていると思われる。</p>

## 参考 教育委員会の活動状況

### (1) 教育委員の選任状況（平成27年3月31日現在）

職名	氏名	任期
委員長	平澤 憲次	委員任期 H26. 6. 24～H30. 6. 23
委員長職務代理者	柴山 博光	委員任期 H24. 6. 24～H28. 6. 23
委員	井上 明美	委員任期 H23. 6. 24～H27. 6. 23
委員	小野 瀬彰	委員任期 H25. 6. 24～H29. 6. 23
教育長	今泉 寛	委員任期 H26. 10. 1～H30. 9. 30

### (2) 教育委員会会議の開催状況

年月日	件名
平成26年4月22日 定例会	報告案件 <ul style="list-style-type: none"> <li>・笠間市長選挙及び笠間市議会議員補欠選挙の同時選挙における職員の兼務の協議について</li> <li>・笠間市教育指導員の委嘱について</li> <li>・笠間市教育支援委員会委員の委嘱及び任命について</li> <li>・笠間市教育支援委員会調査員の委嘱及び任命について</li> <li>・笠間市立学校評議員の委嘱について</li> <li>・笠間市立小中学校統合準備委員会委員の解嘱及び委嘱について</li> <li>・笠間市社会教育委員並びに公民館運営審議会委員の委嘱について</li> </ul>
平成26年5月20日 定例会	審議案件 <ul style="list-style-type: none"> <li>・笠間市立幼稚園保育料等徴収条例施行規則の一部を改正する規則について</li> <li>・笠間市私立幼稚園就園奨励費補助金交付要綱の一部改正について</li> <li>・平成26年第2回笠間市議会定例会提出議案に同意することについて</li> </ul> 報告案件 <ul style="list-style-type: none"> <li>・笠間市立小中学校統合準備委員会委員の解嘱及び委嘱について</li> <li>・笠間市図書館協議会委員並びに笠間市子ども読書活動推進会議委員の任命について</li> </ul>
平成26年6月24日 定例会	審議案件 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会委員長職務代理者の指定について</li> </ul> 選挙案件 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会委員長の選挙について</li> </ul>
平成26年7月25日 定例会	審議案件 <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27年度小・中学校において使用する教科用図書並びに小・中学校特別支援学級（知的障害）において使用する教科用図書の採択について</li> <li>・笠間城跡調査指導委員会委員の委嘱について</li> </ul>

	<p>報告案件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・笠間市スポーツ振興審議会委員の任命について</li> </ul>
平成 26 年 8 月 22 日 定例会	<p>審議案件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・笠間市立小中学校学区に関する規則の一部を改正する規則について</li> <li>・平成 26 年度全国学力・学習状況調査における笠間市の結果公表について</li> <li>・平成 26 年第 3 回笠間市議会定例会提出議案に同意することについて</li> </ul>
平成 26 年 9 月 24 日 定例会	<p>審議案件等なし</p>
平成 26 年 10 月 1 日 臨時会	<p>審議案件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・笠間市教育委員会教育長の任命について</li> </ul>
平成 26 年 10 月 24 日 定例会	<p>審議案件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 26 年第 4 回笠間市議会定例会提出議案に同意することについて</li> </ul> <p>報告案件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・笠間市立小中学校統合準備委員会委員の解嘱及び委嘱について</li> </ul>
平成 26 年 11 月 19 日 定例会	<p>審議案件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市長の権限に属する事務の委任及び補助執行に係る協議について</li> <li>・笠間市立小中学校スクールバス運行に関する条例施行規則について</li> <li>・笠間市立小中学校スクールバス運行規程について</li> <li>・笠間市教育委員会の管理する施設における防犯カメラの設置及び運用に関する要綱の一部改正に係る議案について</li> <li>・平成 26 年度笠間市教育委員会外部評価報告書について</li> </ul> <p>報告案件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・叙位の推薦について</li> <li>・茨城県議会議員一般選挙及び笠間市議会議員一般選挙における職員の兼務（充当，事務従事）の協議について</li> </ul>
平成 26 年 12 月 16 日 定例会	<p>審議案件等なし</p>
平成 27 年 1 月 20 日 定例会	<p>報告案件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・笠間市資料館運営委員の解嘱及び委嘱について</li> <li>・笠間市スポーツ推進審議会委員の解任及び任命について</li> </ul>
平成 27 年 2 月 20 日 定例会	<p>審議案件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・笠間市立学校医の解職及び委嘱並びに担当校変更について</li> <li>・平成 27 年第 1 回笠間市議会定例会提出議案に同意することについて</li> </ul> <p>報告案件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・叙位の推薦について</li> </ul>

平成 27 年 3 月 16 日 臨時会	審議案件 ・ 学校長の人事内申について
平成 27 年 3 月 20 日 臨時会	審議案件 ・ 平成 27 年度笠間市教育委員会事務局職員の人事異動について
平成 27 年 3 月 20 日 定例会	審議案件 ・ 笠間市立学校評議員の委嘱について ・ 笠間市教育指導員の委嘱について ・ 笠間市教育相談員の委嘱について ・ 笠間市学校薬剤師の解職及び委嘱について ・ 笠間市立小中学校スクールバス運行内容について ・ 笠間市通学路交通安全プログラムの策定について ・ 笠間市学校給食費取扱規則の一部を改正する規則について ・ 笠間市立小学校遠距離通学費補助金等交付に関する規則の一部を改正する規則について ・ 笠間市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則について ・ 笠間市教育委員会事務委任規則の一部を改正する規則について ・ 笠間市教育委員会公印規則の一部を改正する規則について ・ 笠間市教育委員会公告式規則の一部を改正する規則について ・ 笠間市教育委員会会議傍聴人規則の一部を改正する規則について ・ 笠間市教育委員会事務局処務規程の一部改正について ・ 笠間市教育委員会教育長事務委任規程の一部改正について ・ 笠間市教育委員会事務専決規程の一部改正について ・ 笠間市教育委員会外部評価委員会設置要綱の一部改正について ・ 笠間市自家用車の公務利用に関する取扱要綱の一部改正について ・ 笠間市立学校職員服務規程の一部改正について ・ 笠間市立学校処務規程の一部改正について ・ 笠間市私立幼稚園運営助成金交付要綱の廃止について ・ 笠間市寺子屋事業開設要綱の一部改正について ・ 第二次笠間市子ども読書活動推進計画について ・ 笠間市立幼稚園保育料等徴収条例施行規則の全部改正について
平成 26 年度 教育委員会会議開催状況 1 開催回数 15 回 (定例会 12 回、臨時会 3 回) 2 議案件数 44 件 3 報告件数 16 件 4 選挙件数 1 件	

(3) 教育委員会会議以外の活動（各種会議・研修会・学校訪問等）

- 平成26年4月 幼稚園入園式及び小・中学校入学式  
全国都市教育長協議会理事会  
茨城県市町村教育長協議会総会  
茨城県都市教育長協議会総会  
茨城県市町村教育長・学校長会議
- 5月 関東地区都市教育長協議会総会  
笠間市立小中学校統合準備委員会  
関東甲信越静教育委員会連合会総会  
市町村教育委員会教育長会議  
全国都市教育長協議会理事会及び総会  
茨城県教育委員会連合会総会
- 6月 第4採択地区教科用図書選定協議会
- 7月 管内市町村教育委員会教育長及び代表校長会議  
第4採択地区教科用図書選定協議会  
サマーミーティング
- 8月 市町村教育長協議会夏季研修会
- 9月 小学校運動会, 中学校体育祭  
市町村教育委員会教育長会議
- 10月 幼稚園運動会  
市町村教育委員会教育長会議  
全国高等学校アームレスリング選手権大会
- 11月 市町村教育委員会教育長会議
- 12月 教育施設訪問  
茨城県民駅伝大会  
第9回かさま陶芸の里ハーフマラソン大会
- 平成27年1月 笠間市消防出初式  
平成26年度笠間市成人式  
管内市町村教育委員会教育長会議  
第52回県下中学校交歓笠間市駅伝大会  
茨城県市町村教育長協議会冬期研修会
- 2月 笠間市立小中学校統合準備委員会
- 3月 幼稚園卒園式及び小・中学校卒業式  
笠間市立東小学校閉校記念式典  
笠間市立箱田小学校閉校記念式典  
笠間市立佐城小学校閉校記念式典  
笠間市立東中学校閉校記念式典  
管内市町村教育委員会教育長会議  
かさま国際音楽アカデミー2015開講式  
小学校スクールバス試験運行  
筑波海軍航空隊慰霊献茶式  
笠間市教育委員会庁舎開所式  
かさま国際音楽アカデミー2015終了式